

# ローマ、ビジョンを打ち立てる——その七

最後の争い：アドベンチストの預言におけるローマの象徴と恩恵期間の終わり

Jeff Pippenger

2024-08-17

私たちは、アドベンチズムの歴史においてローマの象徴をめぐる論争が争点となった六つの歴史的なラインを検討しています。私たちは、「ここに少し、そこに少し」と「行に行を重ねる」という後の雨の方法論を用いています。私たちはまず、ローマの象徴をめぐる最初の論争が現在の論争を例証していることを確認し、そのため、いま私たちが猶予期間が閉じる前の最後の論争にあることを強調しました。

ローマの象徴をめぐるこの最後の論争の重大さは、ダニエル書11章10～16節にも表されており、これらはダニエル書11章40節の隠された歴史を予表している。40節の歴史は、10節に示されているように、預言の研究者を1989年とソビエト連邦の崩壊へと導く。次の41節、すなわちアメリカ合衆国に間もなく到来する日曜法を示す節は、16節によって予表されている。靈感は、封印されていたのは「終わりの時に関するダニエル書の部分」であったと明らかにしている。

1989年から日曜法に至るまでの期間は、終わりの時の封印された部分であり、10節から16節に型として示されている。それゆえ、セブンスデー・アドベンチストの恩恵期間の終結へと導くのは知識の増大である。というのも、アメリカ合衆国におけるアドベンチズムの恩恵期間は、日曜法で終わるからである。さらに、10節から16節の中の14節は、神の民の「略奪者たち」が幻を成就させるのだと示している。

ゆえに、1843年のパイオニア図表に示されているミラー派をめぐる論争は、アドベンチズムの歴史におけるローマをめぐる最初の論争である。同じ論争が再び起こっているという事実は、見ようとする者には、アルファでありオメガであるイエスが、常に初めによって終わりを示されることを示している。現在の論争は、賢い乙女たちと愚かな乙女たちをふるいにかける最後の論争である。

聖別された預言的論理は、14万4千人が、間もなく到来する日曜法の時に迎える彼らの恩恵期間の終結に先立ち、完全な一致に達することを教えている。マラキの契約の使者の精錬の火は、今、レビ人を金や銀のように清めている。塵払いの人は、今、真理の言葉によって自らの床を清めている。

「『手に箕を持っておられ、打ち場を徹底的に清め、麦を集めて倉に納められる。』マタイ3章12節。これは清めの時の一つであった。真理の言葉によって、もみ殻が麦からふるい分けられていた。戒めを受け入れるにはあまりにも虚栄と独善に満ち、謙遜な生活を受け入れるにはこの世を愛しすぎていたため、多くの者がイエスから離れていった。今もなお多くの人が同じことをしている。今日も魂は、カペナウムの会堂にいたあの弟子たちのように試されている。真理が心に迫ると、自分の生き方が神の御心になくなっていないことが見えてくる。自分自身が全く変えられる必要を悟るが、自分

を捨てる務めを引き受けようとはしない。だから、自分の罪が明るみに出ると怒り、弟子たちがイエスから離れたときのように、つまずいて去って行き、『これは聞きにくい言葉だ。だれがそれを聞いていられようか』とつぶやく。」『The Desire of Ages』392頁。

その章の最初の16節がダニエル書における最後の預言の始まりであり、またそれらの節が同章の最後の6節と一致しているという事実は、アルファでありオメガである方が、ダニエル書12章に示されている賢い者と悪しき者の最終的な選別を成し遂げるために、冒頭の節を用いていることを示している。しかもその選別はいま起こっている。

この論争の深刻さを示す第三の証言は、ホワイ特姉妹の著作を通じた靈感が、第14節におけるローマに関する論争を表している1843年のパイオニア図表を明確に支持しているという事実である。初めの論争は終わりの論争を表しており、第14節の「あなたの民の略奪者」に関するミラライト派の理解への靈感による承認は、その基礎的な真理を拒むなら、それが同時に預言の霊の権威の拒否であることを意味する。猶予期間が閉じる直前にこの論争が起こると強調する前の二つの証言と一致して、預言の霊を擁護すると公言する者たちにとっての最後、すなわち最終的な欺きが、預言の霊の拒否であることは確かである。

サタンは…偽りのものを絶えず持ち込み、真理から引き離そうとする。サタンの最後の欺きは、神の御霊の証しを無効にすることである。「幻がなければ、民は滅びる」（箴言29章18節）。サタンは、さまざまな方法や手段を用いて巧妙に働き、神の残りの民が真の証しに抱く信頼を揺るがそうとする。

証言に対してサタンの憎しみがかき立てられるだろう。サタンの働きは、諸教会がそれらに寄せる信頼を揺るがすことに向けられる。その理由はこうである。もし神の御霊の警告と叱責と勧告に耳が傾けられるなら、サタンは自分の欺きが入り込み、人々の魂をその惑わしで縛り上げるための、これほど明確な足場を得ることはできないからである。『選ばれたメッセージ』第1巻、48頁。

エレン・ホワイトの著作を通して与えられた「神の御霊の証し」の権威を無効にすること、またはその権威を拒むことは、「サタンのまさに最後の欺き」である。ホワイト姉妹は、「『1843年の図表は主の御手によって導かれ、改変すべきではない』と示された」と記した。前の一節は、預言の霊の権威の拒否を終わりの日の幻と直接結びつけている。というのも、すべての預言者は最も直接的に終わりの日について語っているからである。ゆえに、ダニエルが十四節で「略奪者たち」が幻を確立すると言うとき、それは箴言29章18節にあるソロモンの幻のことであり、そこでは幻のない者は「滅びる」と言われている。そして「滅びる」という語は「裸にされる」ことを意味する。

したがって「滅びる」とは、終わりの時に預言の霊を支持していると公言しながら、その中に表されている権威を拒む者たちは、裸となり、そして滅びるのだ、ということを示している。これは、「みじめで、衰れで、貧しく、盲目で、裸である」と形容されるラオデキヤの人々の描写である。彼らは、「白い衣を買ってあなたが着るため、あなたの裸の恥が現れないように」と勧められている。その勧めを拒むなら、彼らは主の口から吐き出される。

こうして、恵みの時が閉じる直前にこの裸の状態が現れることを示す、もう一つの証拠を見いだす。まもなく到来する日曜法の時、その裸の人々は、ダニエル書11章41節に示されているように打ち倒され、獣の印を受ける。彼らが打ち倒されるのは、1843年の先駆者図表を支持する預言の霊の權威を拒んだからである。その図表はアドベンチズムの基礎を表しており、さらに、14節で「あなたの民を略奪する者ども」として表されている権力がローマであると特定することによって、その幻を確かなものとする「鍵」を含んでいる。

ただ一つ確かなことは、サタンの旗印の下に立つセブンスデー・アドベンチストは、まず、神の霊の証しに含まれている警告と戒めを信じる信仰を捨てるということだ。

より深い献身と、いっそう聖なる奉仕への召しが発せられており、今後も発せられ続ける。今、サタンの示唆を口にしてしている人々の中には、やがて我に返る者もいる。信頼を託された要職にありながら、この時のための真理を理解していない者たちがいる。彼らにこそ、そのメッセージを伝えなければならない。彼らがそれを受け入れるなら、キリストは彼らを受け入れ、ご自身と共に働く者とする。しかし、そのメッセージを聞くことを拒むなら、彼らは暗黒の君の黒旗の下に立つことになる。

私は、この時の尊い真理が人の心にますます明らかに開かれていることを告げるよう指示されています。特別な意味で、男も女もキリストの肉を食べ、その血を飲むべきです。真理は絶えず拡大するものですから、理解は発展していくでしょう。真理の創始者である神は、彼を知ろうとし続ける者たちと、ますます親しい交わりを持ってください。神の民がその御言葉を天からのパンとして受け取るとき、神が出て来られることが朝のように備えられていることを知るでしょう。からだは食物を取って肉体の力を得ると同じように、彼らは霊的な力を受けるでしょう。Spalding and Magan, 305, 306.

前回の記事で、ユライア・スミスが1863年の反乱の旗手であったことを確認した。というのも、偽の1863年図表を導入したのは彼だったからである。彼が1863年に作成した図表は、ラオデキア的アドベンチズムの預言的メッセージからレビ記26章の「七つの時」を取り除き、これにより土台を段階的に取り崩していく過程の幕開けとなり、また、砂の上に建てられた偽のラオデキア的アドベンチストの土台の構築の始まりでもあった。その後のアドベンチストの歴史において、彼の「北の王」に関する私的解釈は、人々が教会から離れていくという形で、彼の預言モデルの結実を示した。

羊の皮を着てあなたがたのところへ来る偽預言者たちに気をつけなさい。しかし、内側は貪欲な狼です。あなたがたは彼らをその実によって見分けることができます。茨からぶどうが、あざみからいちじくが採れるでしょうか。同様に、良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結びます。良い木が悪い実を結ぶことはできず、また、悪い木が良い実を結ぶこともできません。良い実を結ばない木はみな切り倒され、火に投げ込まれます。だから、あなたがたは彼らをその実によって見分けるのです。『主よ、主よ』とわたしに言う者が皆天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父の御心を行う者だけが入るのです。その日には多くの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ、私たちはあなたの名によって預言し、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの奇跡を行ったではありませんか。』しかしそのとき、わたし

は彼らにはっきり言います。『わたしはあなたがたを全く知らない。不法を行う者たちよ、わたしから離れなさい。』だから、わたしのこれらの言葉を聞いてそれを行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえられます。雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それは倒れませんでした。岩の上に土台が据えられていたからです。また、わたしのこれらの言葉を聞いても行わない者は皆、砂の上に自分の家を建てた愚かな人にたとえられます。雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、それは倒れてしまい、その倒れ方は大きいものでした。マタイによる福音書 7:15-27。

ラオデキア的なセブンスデー・アドベンチズムの指導部は、1989年に、まさにキリストの誕生時にユダヤ教の指導部が顧みられなかったのと同様に、顧みられなかった。

人々はそれを知らないが、その知らせは天を喜びで満たしている。いっそう深く優しい思いをもって、光の世界の聖なる者たちは地上へと引き寄せられている。彼のご臨在によって、全世界はより明るく輝いている。ベツレヘムの丘々の上には、数えきれない天使の大群が集められている。彼らは世界にこの喜ばしい知らせを告げる合図を待っている。もしイスラエルの指導者たちが託された務めに忠実であったなら、イエスの誕生を告げ知らせる喜びにあずかることができたであろう。しかし今や、彼らは差し置かれている。

神は言われる。「渴いている者に水を注ぎ、乾いた地に大水を注ぐ。」

「正しい者には、闇の中に光が昇る。」 イザヤ書 44:3、詩編 112:4。

光を求め、それを喜んで受け入れる者には、神の御座からのまばゆい光が輝く。『The Desire of Ages』 47。

キリストのラインにおける終わりの時は彼の誕生であり、その世代を試みることになるメッセージが封印から解かれたのはその時であった。1989年は、十四万四千人の中に加わるように召されている候補者たちにとっての終わりの時であった。ユーライア・スミスの預言的モデルは、1843年の図表に示されている土台となる真理を退けた。それらの真理は「岩」であった。

「警告が与えられました。1842年、1843年、1844年にこのメッセージが与えられて以来、私たちが築いてきた信仰の土台を乱すものを、何一つ入り込ませてはなりません。私はこのメッセージに関わっており、それ以来ずっと、神が私たちにお与えになった光に忠実に、世の前に立ってきました。日々、切なる祈りをもって主を求め、光を求めながら、私たちの足が据えられたその土台から退くつもりはありません。神が私にお与えになった光を、私が手放すと思いますか。それはとこしえの岩のようであるべきものです。与えられて以来、ずっとそれが私を導いてきました。」 レビュー・アンド・ヘラルド、1903年4月14日。

2001年9月11日、第三の災いにおけるイスラムを象徴する風が解き放たれ、後の雨がぱらつき始めた。そして、愛国者法はイングランド法からローマ法への転換を画し、教皇権の洪水が押し寄せ始めたことを予言的に告げた。ラオデキア的なアドベンチズムの家に対する最後の試練の過程が始まり、「雨が降り、大水が来て、風が吹き、その家に打ちつけた。その家は倒れ、その倒れ方は非常に大きかった」。

その時、力ある天使が告げたメッセージは、すべての国々がバビロンのぶどう酒を飲んでいたこと、そして1863年の反逆以来次第に採用されてきたローマ教皇制と背教的プロテスタント主義の偽りの方法論が、バビロンのぶどう酒（教義）によって象徴されていることを明らかにした。

これらのことの後、私は、天から降りてくるもう一人の天使を見た。その天使は大いなる権威を帯び、その栄光によって地は輝いた。彼は力強い大声で叫んだ。「大いなるバビロンは倒れた、倒れた。彼女は悪魔たちの住みか、あらゆる汚れた霊の巣窟、あらゆる汚れた憎むべき鳥の檻となった。というのは、諸国の民はみな彼女の淫行の怒りのぶどう酒を飲み、地の王たちは彼女と姦淫を行い、地の商人たちは彼女の贅沢の豊かさによって富を得たからである。」黙示録 18:1-3

2020年7月18日の失望をもって、ラオデキアのセブンスデー・アドベンチスト教会に対する試練の過程は終わり、十四万四千のうちに数えられる候補者たちに対する試練の過程が始まった。2023年7月にミカエルがその候補者たちを目を覚まさせ始めたとき、アドベンチズムのたとえ話で油として表されているメッセージが再び封印が解かれた。2001年9月11日以後であれ、2023年7月以後であれ、油が注がれ、そして2023年7月に封印が解かれたそのメッセージは、十分に発展すると、そのたとえ話における真夜中の叫びのメッセージである。

それは試練の時に、賢いおとめたちと愚かなおとめたちへのメッセージとして始まるが、大いなる叫びのメッセージへと高まっていく。そのメッセージは、まもなく到来する日曜法の時に達し、それが来ると、黙示録十八章の第二の声が、神のほかの群れをバビロンから呼び出す。

また、天から別の声を聞いた。「わたしの民よ、彼女のもとから出て来なさい。彼女の罪にあずからず、彼女に下る災いを受けないためである。彼女の罪は天にまで達し、神は彼女の不義を思い起こされた。」黙示録 18:4, 5.

1～3節の第一の声は試練の時の到来を告げ、その後、後の雨が降り始めた。第二の声は、その試練の時の終わりを示し、いまだバビロンにいる神のほかの群れに対する試練の時間を告げる。

このように、世界への警告のための最後の働きにおいて、諸教会に二つの明確な呼びかけがなされる。第二の天使のメッセージは、「バビロンは倒れた、倒れた、その大いなる都は。彼女はその淫行による怒りのぶどう酒をもって、すべての国々に飲ませたからである。」そして第三の天使のメッセージの大いなる叫びにおいて、天から「わたしの民よ、彼女から出て来なさい」という声が聞こえる。Review and Herald、1892年12月6日。

聖霊が注がれる時に、パウロがテサロニケ人への手紙第二で述べた「強い惑わし」が成就する。2001年9月11日に始まったラオデキアのセブンスデー・アドベンチスト教会の試みであれ、2020年7月18日の失望を経験した乙女たちの試みであれ、その試みは聖霊の注ぎの最中に起こる。その注ぎは、人々を試すメッセージを表している。

全地の主のそばに立つ受膏者たちは、かつてサタンに与えられていた守りのケルブとしての地位を持っている。御座を取り巻く聖なる存在たちを通して、主は地に住む者たちと絶えず交信を保っておられる。黄金の油は、神が信者のともしびを満たし続け、揺らいで消え去ることのないようにされる、その恵みを表している。もし神の御霊の告げることばにおいてこの聖なる油が天から注がれなければ、悪の諸勢力が人を完全に支配してしまうだろう。

私たちが神から送られるみ告げを受け取らないとき、神は辱められる。こうして、暗闇の中にいる者たちに伝えられるために、神が私たちの魂に注ぎ込もうとしておられる黄金の油を、私たちは拒んでしまう。「見よ、花婿が来る。出て行って彼を迎えよ」という呼びかけが来るとき、聖なる油を受け取らず、心にキリストの恵みを大切にしていなかった者たちは、愚かな乙女たちのように、自分たちが主をお迎えする備えができていないことに気づくであろう。彼らには、その油を得る力が自分自身の内にないので、彼らの人生は難破してしまう。しかし、もし神の聖霊を求め、モーセがそうしたように「あなたの栄光を私に見せてください」と嘆願するならば、神の愛は私たちの心に豊かに注がれる。黄金の管を通して、黄金の油が私たちに注がれるであろう。「権勢によらず、力によらず、ただわが霊によって」と万軍の主は言われる。義の太陽の輝く光線を受けて、神の子どもたちは世にあって光として輝く。Review and Herald, 1897年7月20日。

十四万四千人の封印の時期は2001年9月11日に始まり、それは二つの試練の期間を表している。第一はラオデキアのセブンスデー・アドベンチスト教会の最終的な試練であり、第二は十人の乙女のたとえの対象となる人々のためのものである。賢い乙女であるか愚かな乙女であるかが明らかにされるためには、すべての乙女が遅れの時を経験しなければならない。

ミラー派の歴史において、「遅延の時期」は第二の天使の到来とともに始まり、それは最初の失望の時に起こった。その時点で、神のかつての契約の選民であったプロテスタントは退けられた。2020年7月18日、かつての契約の選民は退けられ、ミラー派の歴史における遅延の時期に起きた試しの過程が繰り返され始めた。その後、真夜中の叫びのメッセージがミラー派の歴史の中で展開され、現在も展開されつつある。それがエクセターのキャンプ集会に完全に到来したとき、誰がそのメッセージ（油）を持っているのか、誰が持っていないのかが明らかになった。いずれの歴史においても、かつての契約の選民が最初に試され、退けられる。

「わたしはあなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を置く。」私は、神の御霊がこの世から取り去られつつあると心から確信しています。そして、大いなる光と機会を与えられながらそれを活かさなかった者たちが、真っ先に取り残されるでしょう。彼らは神の御霊を悲しませ、遠ざけてしまったのです。今、サタンが人々の心、教会、諸国民に働きかけているありさまは、預言を学ぶすべての者を驚かせはるはず。終わりは近い。私たちの教会は立ち上がりましょう。個々の教会員の心のうちに神の回心の力が経験され、そのとき私たちは神の御霊の深い御働きを見ることになるでしょう。罪の赦しだけが、イエスの死の唯一の結果ではありません。彼が無限の犠牲を払われたのは、罪が取り除かれるためだけではなく、人間性が回復され、再び美しくされ、荒廃から造り直され、神の御前にふさわしい者とされるためでもあつ

たのです。『セレクトッド・メッセージ』第3巻、154ページ。

いずれの試練期間でも、封印の解かれたメッセージを拒んだ者たちは、パウロの強い惑わしを受ける。

私たちの理解を納得させ、心に触れた真理を軽々しく扱うことは、恐るべきことである。私たちは、神があわれみによって私たちに送られる警告を、何の罰も受けずに退けることはできない。ノアの時代には天から世界にメッセージが送られ、人々の救いはそのメッセージをどのように扱うかにかかっていた。彼らはその警告を退けたため、神の御霊はその罪深い人類から取り去られ、彼らは洪水の水の中で滅びた。アブラハムの時代には、ソドムの罪ある住民のためにあわれみが執り成すことをやめ、ロトとその妻と二人の娘を除くすべての者が、天から降された火によって焼き尽くされた。キリストの時代も同様であった。神の御子は、その時代の不信のユダヤ人にこう宣言された。「見よ、あなたがたの家は荒れ果てたままに残される。」末の時代を見渡すときも、同じ無限の御力は、「救われるために真理への愛を受け入れなかった」者たちについて、こう宣言する。「このゆえに、神は彼らに強い惑わしを送り、彼らが偽りを信じるようにされる。それは、真理を信じず、不義を喜んだ者が皆、罪に定められるためである。」彼らが御言葉の教えを退けると、神は御霊を取り去り、彼らが愛する欺きに彼らを委ねられる。『初期の著作』46頁。

次回の記事でこの研究を続けます。